



東福寺神社の神紋

# 東福寺神社だより

第9号 令和6年4月発行

発行 東福寺神社

ホームページ <https://www.walkigram.net/tofukuji/shrine01.html> または **信州まちあるき 東福寺神社**

〈問い合わせ先〉

■東区総代

■上組区総代

■上庭区総代

■中組区総代



東福寺神社の社叢。冬枯れ早春の3月、東側方向より撮影

## 鎮守の杜、社叢をちん じゅ もり しや そう探る ～緑豊かな生態系を守るため～

鎮守の杜 社叢とは何か

日本の神社には、境内に生い茂る樹木がつくる鎮守の杜がつきものです。それを社叢と呼びます。

私たちは、神様がお祀りされている場所、つまり神域には樹林とか森があるものだというイメージを抱いています。

それは、日本の神道が山や川や森などの自然環境のなかのあらゆるものに神が宿っていると考える、自然信仰・自然崇拜から始まったからだと見られます。

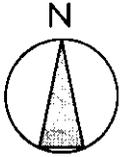
日本の原風景としての農村の景観は、村落が神社の杜、社叢を中心として家々が集まり集落を形成しているということです。

小高い山にのぼって川中島平を見渡すと、村ごとに神社の鎮守の樹林があつて、集落としてのまとまりができ上っているのがわかります。

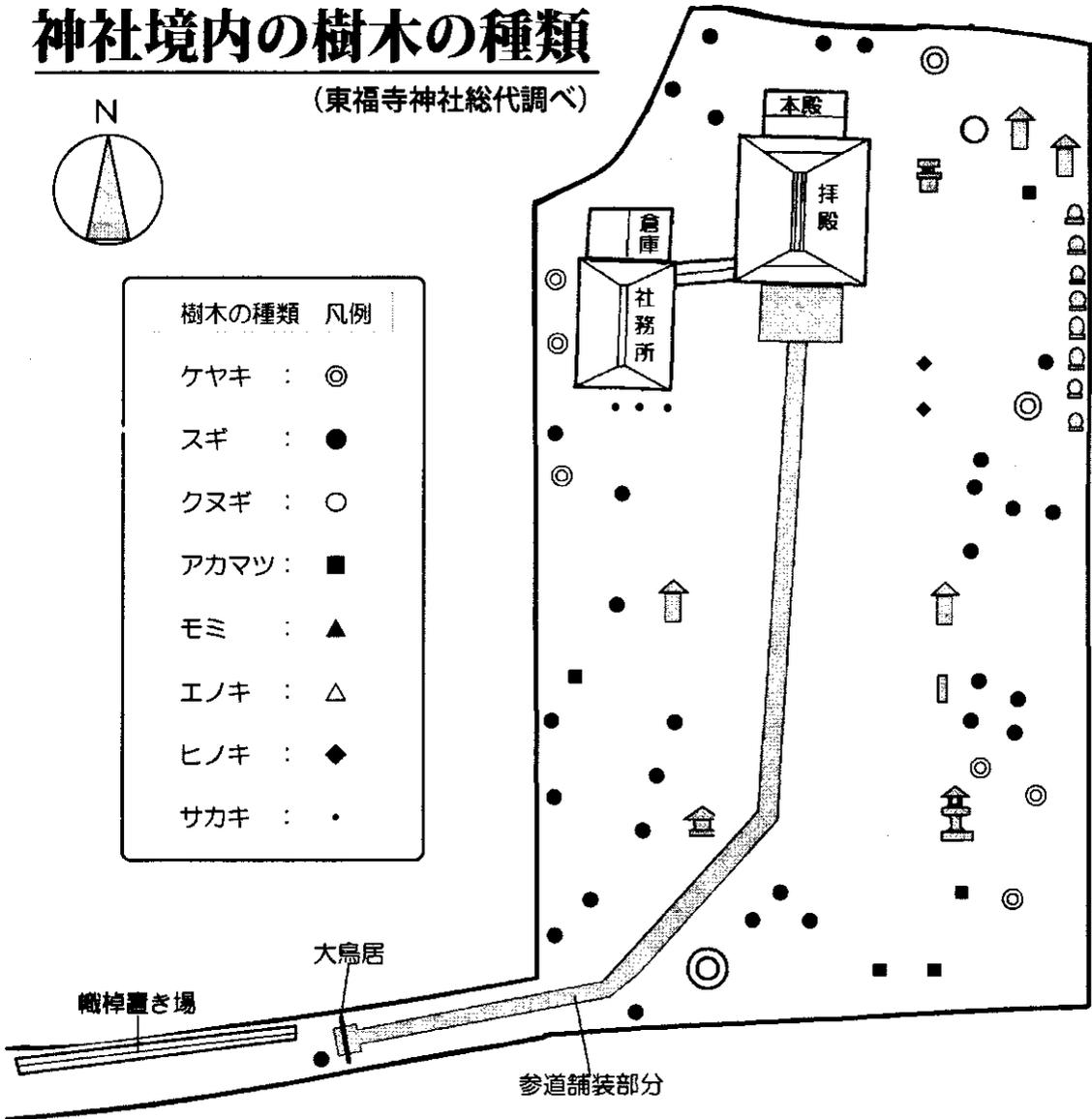
深い緑のこんもりとした社叢は、集落の中心に位置していたり、家々が集まった集落と水田などの耕作地との境目に置かれていたりします。緑豊かな生態系を守るために鎮守の杜は大切に考えましょう。

# 神社境内の樹木の種類

(東福寺神社総代調べ)



樹木の種類	凡例
ケヤキ	◎
スギ	●
クヌギ	○
アカマツ	■
モミ	▲
エノキ	△
ヒノキ	◆
サカキ	・



失ったら戻すことはできない

## 東福寺神社の社叢の植生

神社の境内神域の樹木や草などの、植物からなる鎮守の杜を「社叢」と呼びます。

東福寺神社の境内神域は、南北に長い長方形をしています。東西の幅が約40mで、南北の長さが六五〜七〇m。北西の隅が少し斜めにかけています。境内神域の面積は、およそ二七〇〇㎡、八二〇坪ほどの広さです。

社叢の樹木の種類と本数を調べたところ、次のような結果になりました。

- ・ケヤキ 一〇本      ・スギ 三二本
- ・アカマツ 五本      ・クヌギ 一本
- ・ヒノキ 二本      ・モミ 一本
- ・エノキ 一本      ・サカキ 三本

## 落雷で焼けた大ケヤキ

そのなかでも目立つご神木を紹介しましょう。

大鳥居の東側に立つ大ケヤキは、六〇年ほど前に落雷で幹の中心部が焼けてしまいましたが、力強く生き延びてたくさんの枝葉を茂らせています。幹周りは一〇m以上で樹齢は五〇〜八〇年くらいと見積もられます。上田市塩田の名刹、前山寺の参道には樹齢七〇〇年くらいの大ケヤキの巨木がありますが、東福寺神社の大ケヤキの幹周りはそれよりも大きいのです。

もしかしたらこの巨木は、鎌倉時代の中期的ないし室町時代から、この辺りの人びとの生活を眺め



▲大鳥居をくぐると目の前にケヤキのご神木があらわれる。園児たちの格好の遊び場だ。



▶六〇年ほど前に落雷で幹の中心部が焼けてしまった。根本をセメントで補強して、今も力強く生き延びている。根本をセメントで

てきたのかもしれない。信州のなかでも特筆すべき老巨木です。

今は根本がコンクリートで補強されていますが、六〇年前には地面から1m以上の高さまで樹皮が残って

いて、子どもたちはそれを乗り越えて洞のなかに入って遊びました。

ほかに樹齢が三〇〇年以上と見られるケヤキが少なくとも二本あります。

### 一世紀以上生きていくクヌギ

また、社殿の東側にそびえているクヌギの巨木は、樹高が二五m近くもあり、樹齢は一〇〇〜一二〇年ほどと見られています。

針葉樹ではアカマツのうち境内南端の三本は樹齢一二〇年以上と推定されます。スギでは樹齢七〇年以上と見られるものが少なくとも四本あります。

### 縄文時代の植生の名残り

縄文時代から鎌倉時代までの信州の盆地や山間部には、ケヤキやクヌギコナラ、アカマツからなる原生林が広がっていたようです。そういう自然植生のなかで暮らしてきた信州人は、神社を創建するさいに樹勢の良いケヤキやクヌギ、アカマツを保存したり、その子孫を保護育成したり鎮守の杜を守ってきたのです。

### 風雪や強い陽射しを防ぐ

明治以降、ことに昭和期からは、防風林や建材としてスギを植林するようになったので、神社の境内にもスギを植えて、マツとともに常緑の樹林を育成して、寒い冬にも風雪をやわらげる鎮守の杜を育成してきました。

深い樹林は、人びとに真夏の暑さをしのぐ木陰を提供し、境内には涼しい風が吹きわたります。

### 農作業の広場や

### 子どもたちの遊び場

何よりも鎮守の杜は、子どもたち

の安全な遊びの場になってきました。六〇年ほど前には境内は草野球の場になったり、陣取り遊びや鬼ごっこの場になったりしていました。近くの農家では、刈った小麦を乾燥させたり、脱穀作業をしたりしました。最近では保育園の野外体験の場として活用されるようになり、秋には幼児たちがドングリや松ボツクリを拾って楽しんでます。

### ご神木とは何？

「ご神木」とは、文字通り木そのものが神である、あるいは神様が宿る木ということですが、樹林や山林全体をさすこともあれば、特定の一本または何本かの樹木をさす場合もあります。

伊勢神宮や厳島神社では、境内を取り巻く広大な森林とか社殿の背後の山林全体がご神体となっています。

信州の諏訪大社でも、境内の背後にある広大な山岳と森林が神域となっていて、樹木だけでなく岩石や草、コケ、沼沢、鳥や獣すべてが神が宿る存在とされています。

令和六年度  
東福寺神社の年中祭事

□春の大祭 四月十三日(土)

□夏越しの大祓い 茅の輪くぐり  
六月晦日～七月八日(月)



□風神祭 九月一日(日)  
(二百十日)

□秋の大祭 宵祭り  
九月一四日(土)  
夜7時から四地区神楽奉納

□本祭り 九月一五日(日)

□末社祭・小祭り 九月二日(土)

□新嘗祭 一一月十七日(日)

□元旦祭 令和七年一月一日(水)

パルセイロの幹部が参拝

三月八日(金)、A.C長野パルセイロを運営する会社、長野パルセイロ・アスレチッククラブの経営本部が今年度のリーグ戦必勝祈願のために東福寺神社に参拝しました。

昨年は、同チームのサポーター組織が四月に参拝して必勝祈願をおこないましたが、今年はまだ経営本部がホームゲームの直前に率先して必勝を祈願しました。運営会社としての課題として、リーグ戦勝利のために活動をおこなう決意を示したものと見られます。



▲昨年のサポーターによる必勝祈願。今年こそ、J2昇格達成!

東福寺神社参拝がどんどんランクアップしていています。

茅の輪くぐりに  
奮ってご参加を!

今年度も六月三〇日から七月八日まで、夏越しの大祓いの茅の輪くぐりを開催します。本格的な夏が来る前に、新型コロナ終息などの疫病退散や災厄から逃れるための厄払いをおこない、今年の後半の健康と幸運を願う行事です。

東部保育園の子どもたちも毎年、茅の輪くぐりを楽しみにしています。お孫さん連れや親子で参加できる伝統行事として、子育て世代からも期待されています。

準備は、六月二九日(土)午前八時から。氏子総代が主催して茅の輪づくりなどの準備をおこないます。竹やすすき茅を束ねて大きな輪をつくる楽しい活動です。東福寺のみなさん、ぜひ奮って参加されてはいかがですか。

二年詣りと初詣に  
大勢の子どもたち

令和五～六年の深夜から未明にかけての二年詣り・初詣には、六〇人

以上の参拝者が訪れました。久しぶりの賑わいとなりました。

大晦日の夕刻から元旦まで、恒例にしたがって拝殿と本殿を開放し、すべての参拝者に神の御座所を直接に拝んでいただき、御供物分けとしてミカン2個ずつを手渡しました。

今回の特徴はパルセイロのサポーターが深夜参拝に訪れたこと、家族連れグループがたくさんやって来たことです。参拝者のうち約半分が子どもたちでした。子どもたちは両親や祖父母などとともに深夜から未明にかけての初穂詣りに挑戦しようです。

とくに東部保育園(園児や卒園生)で、夏越しの大祓いの茅の輪くぐりに参加したとか、野外体験で境内に来てドングリや松ボックリ拾いで楽しんだと、笑顔で話してくれる子がいました。また、「あそこには〇〇があるんだよ!」と境内の様子を説明してくれる元気な子もいました。

東部保育園の野外学習で大勢の子どもたちが、東福寺神社の境内樹林を身近な遊び場として体験することは、子どもたちにとって大事な学びの場となっているのです。